

令和3年度 授業改善推進プラン



大田区立徳持小学校

令和3年度 授業改善推進プラン 目次

学力向上を図るために全体計画	・・・	3
小中一貫授業改善プラン重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中校区）	・・・	4
1 国 語	・・・	5
2 社 会	・・・	10
3 算 数	・・・	13
4 理 科	・・・	17
5 外 国 語	・・・	20
6 生 活	・・・	22
7 音 楽	・・・	23
8 図画工作	・・・	25
9 家 庭	・・・	27
10 体 育	・・・	28

学校・地域の実態や願いなど

- 児童の実態
- 本校の教職員の願い
- 家庭・地域の実態
- 保護者の願い

学校の教育目標

- 考える子 ○やさしい子 ○つよい子

教育関係法規など

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- 教育委員会の教育目標
- 東京都教育ビジョン
- おおた教育ビジョン

家庭、地域社会、他の学校や関連機関との連携

- 家庭と協力して基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 地域の人々の協力を生かした教育活動を積極的に行う。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 自ら課題を見付け、自ら学び考え、判断し、解決する能力、態度を育成する。
- 学び方やものの考え方を身に付け、探究活動等に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。
- 自然体験、ボランティア体験などを通して、自らを生かし、望ましい人間関係を育てる。
- 情報や環境など、新しい社会的課題に気づき、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

特別活動の指導の重点

- 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- 集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の重点

- 郷土の特色(池上地区の特色)を活用した学習を通して、身近な地域への関心を高める。
- 地域の人との交流を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育てる。

学校経営方針（学力向上に関わる重点）

授業力向上の目指し、学び合い、高め合う授業の実践により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する。

- 主体的に学ぶ意欲の向上。
- 基礎的、基本的な知識・技能の定着。
- 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成。
 - ・算数学習熟度別指導の充実
 - ・補習教室の実施
 - ・校内研究の充実
 - ・地域の教育力の導入

校内研究

主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり

～ 国語科を通して ～

【目指す児童像】

自分の考えをもち、表現できる子

人間関係や環境の整備、生活指導、生活全般における指導の重点

- 「徳持スタンダード」の徹底により、学校のきまりを理解し、基本的な生活習慣が定着できるようにする。
- 相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
- 安全な環境を整備するとともに正しい言語環境、信頼し合う人間関係を育てる。
- 学校カウンセラーと連携・協力し教育相談の充実を図る。

各教科の指導の重点

国語	各教科学習の基礎となる言語力の育成を図る。「話す・聞く姿勢」を徹底させ、話し合う力を育てる。また、読書活動を推進し、読む力を伸ばす。
社会	資料から必要な情報を集めて読み取り、社会的事象の意味等を解釈し、自分の考えをもつことで、他視点で公正に判断する能力や態度を養い、社会形成に参画する資質を育成する。
算数	数や図形の感覚を育てるために算数的活動を多く取り入れる。基礎的・基本的な内容の確かな定着を図るために、発達や学年の段階に応じたステップ学習による指導を充実させる。
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力をつける。自然の事象・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
生活	言語活動などを通して、人とかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。
音楽	リズム、旋律、ハーモニーを大切に学習を展開し、基本的な楽器の奏法や発声ができるようにする。
図工	絵の具、道具や工具等の基本的な扱い方を基礎力として身に付け、自分の思いを自由に表現できるようにする。
家庭	家庭生活の基礎となる生活技能を、体験活動を通して学ぶ。自らの課題達成のために進んで調べ、手順を考えたり、よりよく工夫したりできるようにする。
体育	体づくり運動などで基本的な動きや柔軟性を身に付ける。また、運動量を確保するとともに自らめあてをもち、励まし、学び合いながら学習できるようにする。
外国語	コミュニケーションの目的や場面を意識して活動を行う。英語の音声や語彙、表現などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

指導内容・指導方法	教育課程	研究・研修の工夫	評価の工夫	地域や家庭との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○学び合い、高め合う場面を設定することで、主体的に学ぶ意欲を高める。 ○教材研究の時間を確保し、指導を工夫して、よりわかる授業を行う。 ○算数ステップ学習や習熟度別指導、東京ベーシックドリルの活用など、個に応じた指導の充実を図る。 ○体験学習・問題解決学習を取り入れ、自ら課題を解決する力を育成する。 ○読書指導や言語活動を充実させ、各教科の基礎となる言語力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振替なしの土曜授業を年間9日実施し、学力向上のための時数を確保する。 ○土曜補習教室、学習カルテの活用により基礎・基本の力を定着させる。 ○読書週間、保護者による読み聞かせなどにより、読書活動を推進する。 ○全学年で外国語活動を実施し、国際理解教育を推進するとともに、言語に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を授業力向上の場とする。全学年・専科教員で分科会を組織して、研究授業を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。 また、学び合い、高め合いを重視した授業を行うことができるようにする。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、外部の研修に参加したりして、指導力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを明確にし、1時間ごとの評価を生かして学力の定着に努める。 ○学校公開での保護者アンケート、外部評価などにより、授業改善を行う。 ○学習効果測定の個人票を基に、学習の定着状況を振り返らせ、目標に向けて学習計画を見直すことができるように学習カウンセリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「徳持スタンダード」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着のために取り組む。 ○国際理解、健康、キャリア、環境教育、地域学習など、地域の協力による体験や交流により学びを広げる。 ○徳持応援団（学校支援地域本部）により、漢字検定など、地域の人材を活用し、地域の教育力を組織化し、教育活動をさらに充実させる。

小中一貫授業改善プラン 重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中学校区）

令和3年度

国語科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	「読むこと」説明的な文章の読解 ・文章の構成や段落の役割 ・論理の展開（原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など） ・図表の読み取り方（数値、変化、違いなど）			

社会科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・対話的な学びを促すICTの活用と問いかけの工夫。 ・社会参画意識を高める活動を取り入れた児童・生徒の思考力を高める授業の工夫。			

算数・数学科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・ICTを活用した演習量の確保 ・ノート点検やワークシートを活用した理解度の把握 ・文章題取り組み強化による読解力向上指導			

理科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・実験、観察に関して、予想を立てる、考察をするなどの活動形態の工夫（個人活動、班活動単位）			

音楽科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・楽譜をよみ、音楽を表現していく経験の積み重ねと技能の習得。			

図画工作・美術科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・発達段階に適した用具や材料の使用経験と技能の習得。			

保健体育科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・運動の苦手な児童・生徒が好きにさせる指導の工夫。			

技術・家庭科

		観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・生活の中で道具を使う工夫。			

外国語科（英語）

		観点別（指導要録に記載されているもの）		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
重点観点		◎		
重点指導事項	・コミュニケーション活動を通して、相手が伝えたいことを理解しようとする態度の育成。 ・習った表現を使い、自分の考えや思いを伝えようとする態度の育成。			

1 国語

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内平均正答率が概ね目標値を上回っている。
- ・第5学年は、基礎的なことにおいて目標値を上回った。
- ・第6学年は、目標値を上回った。特に漢字や文法などの基礎的なことは概ね理解できている。

(2) 課題

- ・「書くこと」が苦手な傾向にある。着目すべき視点を明確にして、文章構成や表現について指導していくことが必要である。
- ・どの学年においても、自分の考えを表現することを苦手としている。日常的に考えをもたせて、発表や交流をさせたい。
- ・児童が主体的に学習に取り組むことができるような課題を設定する。単元の中で、児童が学習を調整する場面を設ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。		
第5学年	・教科全体、基礎は目標値を上回っているが、活用については、下回っている。	・基礎、活用共に目標値を上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	・目標値は上回っており、「基礎」概ね定着している。しかしながら、「活用」が若干目標値を下回っていた。	・目標値よりは上回っている。特に、「活用」においては、概ね定着していると考えられる。 (第5学年時)	・本校目標値を下回っているが、作文の正答率に関しては、「書く」ことの基礎が定着していると思われる結果となった。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・「言葉」の学習については、定着している。 ・主語と述語の関係について苦手な傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・話し合いの内容を聞き取ることはできている。 ・物語や説明文の内容を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができる。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉」の既習内容の漢字の読み書きについては、概ね定着していることが伺える、 ・「言葉」について、連用修飾語の理解や指示語の役割に関してあまり定着していないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」では、話し合いの内容について相違点や共通点を考えながら聞くことが苦手である。 ・「読むこと」では、物語の読みでは、登場人物の様子や情景から、気持ちを読み取ることができる。 ・「書くこと」では、指定された文字数で、根拠を明確にして自分の考えを書くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの伝えたいことが伝わる様、根拠を明確にしたり、事例をあげたりするなど、文章の構成を工夫して書くことが苦手である。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は目標値を上回っている。「言葉」の学習は上回っているものの、「漢字」の学習が同等か下回っている。特に、「漢字の読み」の学習が目標値を下回っているため、苦手な傾向にあることが言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は目標値を下回っている。中でも、「話し合いをもとに活動報告を書き直す」に関しては苦手とする字度が多いと思われる。 ・文章の構成や書き表し方に着目し、問題に対して適切な解答を選択することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は目標値を上回っている。 ・学習に対してめあてや課題を設定したり、設定したことに対して振り返りを行ったりすることができるようになってきている。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低 学 年	第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やす。そのために読書をする時間をつくる。言葉の意味を動作化したり具体物を提示したりして説明する。 物語や説明文などの文章を正しく読み取る。そのために、大事な部分に線を引いたり、全体で確認をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉で分かりやすく表現する。そのために話し合い活動の機会を設けたり、必要に応じ話型を掲示する。 自分の考えをもって相手の話を聞くために、自分の考えと相手の考えを比べながら聞けるようにポイントを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に進んで取り組むために図書時間を設けたり司書教諭の読み聞かせを活用したりする。また学習単元に関する内容の本を集め、活用していく。 学習したことを他教科や生活に生かそうとするために各単元で他教科と横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
	第 2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙をふやす。 小テストや漢字ドリルを計画的に活用して、正しい漢字の書き方を定着させる。 句読点の打ち方や「」の使い方など、文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを的確な言葉を用いて話すことができるようにする。 友達の考えをよく聞き、それに対する自分の考えや感想を持ちながら話を聞くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書時間を活用し、読み聞かせの体験を取り入れて、読書に親しむようにする。 自分の気持ちや思いを書き表す体験を多くして、文章表現をすることに慣れさせる。
中 学 年	第 3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を使用した熟語や文例を考えることで、漢字の定着と語彙の拡充を図る。 書いたり話したりする場面で、国語辞典を活用して、語彙を増やし、使えるようにする。 主語・述語の関係や指示語など、言葉の特徴や使い方について繰り返し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の中心を明確にして話したり、メモを取って聞き、質問したりする場面を設定する。 自分の考えとその理由や事例を明らかにして書かせ、書き方を共有することで工夫できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたいことや話し合いたいことを課題として設定し、その課題を中心に学習を展開する。 漢字の学習の進め方を選択し、語彙や漢字を進んで習得できるようにする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 4 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの基になった叙述や表現に印をつけたりメモしたりすることで、自分の考えを支える理由を話したり書いたりできるようにしていく。 国語辞典を他教科においても意識的に活用できるようにし、辞書の使い方に慣れるとともに、語彙を広げていくことができるようにする。 毎日の漢字学習、週1回の漢字小テストを実施し、繰り返し書くことで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 抽象と具体の違いを単語から文章へ応用し、明確に捉えられるようにする。 書こうとすることの中心を考え、段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く時に話す人の方を向くことを徹底し、聞く姿勢を身に付けさせる。 聞き手を意識して話す順序を考えたり、文章に表したりするなどして、聞き手に分かるように話すことができるようにする。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 既習した漢字や文法などをしっかりと定着させ、「書くこと」に関しての能力向上を自信をもたせるようにする。 日頃の授業から、文章の構成についてしっかりと把握させ、誤読なく、文章を読むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」では、交流を通して、友達の伝えたいことと自分の考えの共通点や差異点を考えながら聞くよう継続的に指導する。 「読むこと」では、叙述を基に登場人物の心情を考えさせ、交流を通して、多くの考えに触れることで、自分の考えを再構築させるようにする。 「書くこと」では、いろいろな資料から読み取ったことなどを根拠にした、自分の考えをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題について自分が納得する考えをもつことができるように、課題解決に対する自らの現在地を把握させるようにする。 自らの伝えたいことが他者に伝わるためにはどうすればよいのかを考えさせることで、自らに必要なことを把握し、より主体的に学習に取り組むようにする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の「書く」だけでなく、「読む」学習にも重点を置き、漢字学習の際、繰り返し学習を行う。 「語彙」の充実のため、言葉を別の言葉に置き換えたり、説明したりできるような学習を行う。 前学年までに学習した「主語・述語」の関係や、「指示語」の示すものを適切に選択できるよう日常的に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の文学的文章においては、登場人物の心情がかかっている文章を適切にとらえ、問われていることに対して正確に答えられるように日常的に指導を行う。説明的文章では、文章から筆者の主張が書かれているところを探し、文章内容を適切に捉えられるようにする。 「書くこと」「話すこと」の学習では、構成に気を付け、自分の意見を具体的に伝えられるよう日常的に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を自ら設定し、それに向けて自ら調整を行い、粘り強く学習に取り組めるような単元設定を行う。また、児童が自己の学習について見つめられるように振り返りの視点を設けたりする。

2 社 会

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 写真や図、グラフなどの資料に触れさせることによって、資料から課題に対する読み取る判断力や、そこから理由を考える思考力が養われ始めた。
- 個々が読み取ったことを友達と交流することで、個々の考えが広がったり、深まったりすることができ始めた。

(2) 課題

- 児童が見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の課題を段階的に設定する必要がある。
- 学習課題に対する自らの学習の取り組みを振り返ることで、個々が課題をもち、意欲的に学習に取り組めるような授業形態をマネジメントする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> • 校内平均正答率（基礎）が、目標値を下回った。 校内平均正答率（活用）が、上回った。 		
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> • 教科全体、基礎、活用共に目標値を若干下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎は目標値を上回っているが、活用にいたっては、目標値を下回っている。（第4学年時） 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> • 目標値を下回った結果となった。しかし「基礎」においては目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 目標値は上回っている。「活用」に関しては、大幅に目標値を上回っており、定着していること伺える。（第5学年時） 	<ul style="list-style-type: none"> • 目標値を上回ることはできたが、さらに向上させる手立てが必要と考える。（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 地図記号や工場について理解している。 「くらしの移り変わり」の、道具の役割についての理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 資料を基に判断することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 目的に応じて、資料を読み取ろうとしている。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 年表やグラフなどの資料から、必要事項を読み取るのが難しい。 地名や都市名など、既習内容の定着が若干されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項やグラフなどの資料を基にして、事実を読み取り、それを基にして、自らの考えをもちたり、表現したりする指導が必要である。 社会的事象の共通点や差異点を整理し、自分の考えを構築する論号の必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での取り組みを振り返り、その目的や取り組む理由を判断、表現する指導が必要である。 資料から読み取ったことと自らの生活を照らし合わせ、根拠を基に、自らの考えを構成する指導が必要である。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 北方領土、地図記号、日本周辺の海流等、知識を問われる問題については正答率が目標値よりも低い。 折れ線グラフの変化を読み取ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値は上回っており、概ね定着していると考えられる。 それぞれの場所で働く人々や施設の工夫に課題がある。 まちの様子について、既存の知識を活用して読み取ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値は上回っているが、更なる向上を目指した手立ての必要性がある。 地図記号や方位の知識をもとに地域の様子を読み取り、考察を行うことに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 資料や地図帳から情報を読み取る機会を増やし、必要な情報を読み取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた課題に対し、自分の意見をもつとともに、友達と意見を交流し、地域の社会的事象の意味を考えさせる。 学習問題に対するまとめや新聞づくりを通して、考えたことを表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を定着させ、学習問題に対して、予想や見通しをもち、調べる学習を行う。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 写真、図、表などを児童用にも配布して、関連付けて考える場面を設定して、知識が定着できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、新聞の型式を工夫して、多様な表現の方法が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して、「つかむ」「調べる」「まとめる」という学習の段階と学習のめあてを明示し、学習の進め方を身に付けさせる。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表などの資料から、学習課題に基づいた内容を読み取る活動を取り入れていく。 地名や都市名など、既習内容の定着を目的とした活動を定期的に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項やグラフなどの資料から課題に沿った内容を読み取る活動を適宜取り入れ、それを基にして、明確な根拠のある自らの考えを表現する学習活動を行う。 資料を伴う学習や友達との交流で、社会的事象の共通点や差異点を整理する方法を複数提示し、児童が活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での社会的事象について、自らの取り組みと関連付け、その目的や取り組む理由を考える活動を取り入れる。 資料などから読み取ったことを自らの生活での取り組みと照らし合わせ、根拠を明確にして、自らの考えを構成する活動を適宜取り入れる。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り、考察することに課題がある。資料から「読み取ったこと」「そこから自分が考えたこと」を分けてノートに書くように指導を行う。 グラフの変化を読み取る練習を行う。増減が大きいところはどこか。 基礎的な知識をつけるためにミニテストを定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵地図や、写真・イラストに示された情報を読み取るために、資料を読み取る時の視点をおさえる。(時間、空間、人、物、どんな様子か等) 働く人々の仕事や工夫はどのようなものがあるのか考察するために何人かで話し合いをする時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図記号や方位の知識、に関して課題が残る。フラッシュカードやパワーポイント等を活用して授業の導入3分程度で毎時間繰り返し復習を行う。

3 算 数

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内平均正答率が、概ね目標値を上回っている。
- ・合同な図形や三角形の面積における底辺と高さの関係についての理解ができている。
- ・東京ベーシックドリルテストを定期的に行い、過年度における既習内容の学年及び個々の習得状況を鑑み、日常の授業などでフィードバックすることで、現学年の学習内容を比較的理解させることができるようになった。

(2) 課題

- ・小数、分数、倍数など、わり算を要する問題の理解や計算に課題がある。
- ・平均、百分率、比例、単位量当たりの大きさなど、問題を正しく読み取って立式することが苦手である。
- ・自分の考えに根拠をもち、言葉や文章、式で説明することが苦手である

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。		
第5学年	・基礎、活用ともに目標値より上回っている。 ・基礎、活用ともに目標値を下回っている。 ・基礎に関しては目標値を下回っていて、活用に関しては上回っている。	・基礎は目標値と同じ数値で、活用は目標値より上回っていた。 ・基礎、活用ともに、目標値を下回っていた。 (第4学年時)	
第6学年	・目標値は上回った。区の平均正答率とほぼ同じである。「基礎」に関しては目標値を下回っているが、「活用」は上回っている。	・目標値よりは上回っている。「活用」に関しては、目標値を若干上回っており、既習内容を活用する力の定着が見られる。 (第5学年時)	・目標値よりは、上回っているが、「基礎」を定着させ、「活用」する力を付けさせる授業改善の必要性がある。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 大きな数や□を使ったわり算について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 文章をよく読み、立式し、答えを求めることができる。 棒グラフの読み取りや活用ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 身近にあるものの重さを推察するなど、生活と関連付けていこうとする態度に課題がある。 時刻と時間や長さや重さについては、生活と結び付けていこうとする態度に課題がある。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 数直線上に示された分数を読み取ることが弱い。 2けた÷1けたのわり算の計算が苦手である。 序数と余りの関係を正しく説明できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数、整数を大小順に並べ替えることができる。 折れ線グラフと表を読み取ることができる。 身近にあるものの面積を推察することが、若干苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 二次元の読み方を全体的に理解しているが、誤答や無回答が多い。 二次元表を読み取り、分類項目を見て、対象マスの意味について、2割程度の児童が説明できていない。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を上回っている。 倍数についての理解に課題がある。 小数を1/100にした数を求められない児童が多い。 異なる分母の分数を通分して計算することができる。 合同な図形を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値より上回っているが、より一層の活用能力定着を目指す学習活用を取り入れたい。 平均や百分率の文章問題の立式に課題がある。 比例・単位量あたりの大きさに課題がある。特に、速さを求める立式が課題である。 底辺と高さが等しければ、どんな三角形も等しい面積になることを説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値より上回っている。 平均や百分率の文章問題の立式に課題がある。 比例・単位量あたりの大きさに課題がある。特に、時速を求める式を立てることが課題である。 底辺と高さが等しければ、どんな三角形も等しい面積になることを説明することができる。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低 学 年	第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算の計算力を定着させるために、練習時間を十分に確保し、プリントや計算カードを使って反復練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に分かりやすく説明する。 図・具体物の操作を用いながら根拠を明確にして話すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲をもたせるために、身近な日常生活の場面を問題の題材として取り上げる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードやプリント、ドリルなどを活用して、繰り返し練習して定着を図る。 時刻や時間、長さやかさの単位や数値については、日常的に取り上げて慣れ親しむようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを絵・図を用いたり、言葉で書いたり説明したりする機会をもたせるように設定します。 文章題では演算決定のキーワードに着目させ、そこから立式できるような指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を活用するなど、教材を吟味して、興味関心がもてる授業をする。 日常生活の中で、100より大きな数や、長さや水のかさなど単位に着目して、関心がもてるような姿勢を育てる。
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係や図形に関わる事柄を児童に問い、日常生活に置き換え、理解を深めさせる。 計算の意味や仕方を言葉や数、式、図を用いて説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、文章問題の読み方や解き方を図式化して丁寧に指導する。 文章中から分かっていること、求めることに注目させ、正しく立式できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が授業を振り返り、まとめる時間を作る。 既習事項をタブレットを用いて復習させ、より深く理解に繋がるようにする。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器等を活用して作図の方法や分度器等の使い方を指導し、図形の構成や面積や角の測定を正しくできるようにする。 普段の授業で、文章問題の読み方や解き方を線分図、数直線等を活用して丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の仕方に留意しながら、教え合ったり、ノートを見せ合ったりして、児童同士の交流の場を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解き終わった後、ペアで確認する時間を設ける。 見直しをすることの良さを実感させる。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルを活用し、既習事項の確かめをさせる。 少人数習熟度別学習の利点を生かし、補習が必要な児童に対して単元末テストの直前等に補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の考えを友達に説明する時間を設ける。 友達の考えを聞いて吟味する時間も設ける。 算数で学習したことを身の回りで生かせることができるのか考える時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやテストでは、分からないことがあった場合、何か書くように声をかける。 何も書けない児童には、個別に指導をしたり、書くためのヒントを与えたりする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ドリルやタブレットドリルを用いて、計算や約数、倍数等繰り返し練習させる。 用語や公式を確実に用いることができるように繰り返し確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通の授業から、数直線を用いて、文章問題に出てくる数量の関係性を表す活動を繰り返し行う。 数直線等を用いて、自分の考えを説明する活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。 特に百分率が日常生活の中で用いられている割合の便利な表現であることに気付くように指導を行う。 単位量あたりの大きさの考え方を、他教科や日常生活に生かすことにつなげられる活動を増やす。

4 理 科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・理科的な用語をおさえた指導、教科書の用語を使っての学習のまとめを行うことで、科学的事象に関する基礎知識が定着してきた。
- ・4年生においては、学んだことを生活とのかかわりの中で見直し実感を伴う学習活動の展開をしたことで、活用の正答率が目標値を上回った。
- ・6年生では、科学的事象が実感できる体験的な活動を行うことで児童の問題意識を高めた。それによって、活用が目標値を上回った。

(2) 課題

- ・引き続き、科学的事象の因果関係や理科的な用語等の理解・定着を図ること。
- ・実験や観察の意義についての指導を徹底し、学習過程をユニバーサルデザイン化すること。各学年で働かせるべき理科的な考え方を児童におさえる。
- ・学習と生活場面でのつながりが希薄であること。単元の導入やまとめの場面で、日常生活とのつながりを意識した授業づくりをする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。		
第5学年	・基礎は目標値を上回っているが、活用は下回っている。 ・目標値と比較しても、基礎は上回っているが、活用は下回っている。	・基礎は目標値を上回っていたが、活用は大幅に下回っていた。 ・どちらも目標値を若干上回っていた。 (第4学年時)	
第6学年	・目標値よりは上回っているが、更なる定着の必要性がある。「活用」は、目標値を若干上回っている。	・目標値の正答率より下回っている。 (第5学年時)	・正答率の目標値より上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 「植物の育ち方」について理解できている。 「じしゃくの性質」についての理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 「光の性質」では、虫眼鏡の効果について説明することに課題がある。 「風やゴムのはたらき」では、ゴムの伸びとはたらく力の関係について考え、判断することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が、目標値を上回った。 実験に主体的に取り組むことができている。 昆虫の体については、正しく観察することに課題がある。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 「天気のようにすと気温」では、気温のはかり方の理解やグラフ化の技能が足りていない。 「月と星」では、星の等級が明るさによって決められていることを覚えられていない。 「もののおたまり方」では、水を温めた時の水の対流の仕方が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「水のすがた」では、ペットボトルを凍らせたとき、膨れて変形した理由を説明できていない。 「物の体積と温度」では、水や金属の温度変化による体積変化について定着していない。 「雨水のゆくえと地面の様子」では、ねらっている実験結果を導くための実験操作について考えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1年間の植物の成長」では、冬の植物の様子について主体的に学習できていない。 「天気のようにすと気温」では、気温変化を記録することに主体的に取り組めていない。 「水のすがた」では、水の状態変化が日常にどのように表れているか等、学習と日常をつなげられていない。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を上回っている。 台風が近づいたときの天気の変化の理解に課題がある。 顕微鏡の倍率の求め方を理解していない児童が見られる。 人やメダカの受精やその後の成長について理解している。 電磁石と棒磁石の共通する特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を上回っているが、より既習内容が定着する手立てを施す必要がある。 気象衛星の雲の画像から、ある地点の天気を読み取ったり、次の日の天気を予想したりすることができる。 ふりこの周期についての実験の条件を揃えることができる。 電流の流れる向きから、方位磁針間に電磁石を置いた時の方位磁針の針の向きについての理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を上回っている。 かえったばかりのメダカがどのようにして養分を得るか説明できる。 ヨウ素でんぷん反応の結果から、種子の養分が発芽に使われたことを説明できる。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ICTを用いた視覚的な教材やドリルパークを活用することで、児童が意欲をもちながら知識の定着を図ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題、予想、予想理由、観察・実験計画、観察・実験、結果、考察、結論の学習過程を行い、科学的・論理的に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較する活動を通して、児童の気付きや思いから問題を見出し、話し合う活動を取り入れて問題解決できるようにする。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解へと結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして分かりやすく考察をまとめさせ、思考する力を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に科学的事象が実感できる体験的な活動を行うなど関心や意欲を高め、児童の問題意識を主とした学習活動を行う。 既習内容を生活との関わりの中で見直し、実感の伴う学習活動を展開する。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解へと結び付ける。 実験や観察で、正しく記録する方法を児童自身に考えさせ、また、教師とともに記録準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして分かりやすく考察をまとめさせ、思考する力を高められるようにする。 実験や観察で、ねらう結果を導き出すための方法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に、科学的事象が実感できる体験的な活動を行うなど関心や意欲を高め、児童の問題意識を大切にした学習活動を重視する。 学んだことを生活との関わりの中で見直し、実感の伴う学習活動を展開する。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて、実験方法を確認し、基本的な実験や観察を正しく行えるようにする。 用語を正しく理解し、覚え、使えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件を制御する考え方を働かせ、予想や仮説を基に、解決の方法を考えさせる。 実験や観察の過程や結果を適切に記録する方法を指導する。 得られた結果を考察する視点を与え、適切に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に日常生活と結び付け、科学的事象に興味をもたせるようにする。 得られた結果を考察する際、友達と考えを交流し理解を深める場面を増やす。

5 外国語

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・チャンツやゲーム、フラッシュカードで英単語を確認するなどの活動により英語に親しもうとする態度の育成が図れた。また、自分から進んで英語を発音しようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・態度の育成が図れたものの、聞き取ることが容易な児童と困難な児童の二極化が進んでいる。また、アルファベットの大文字と小文字について正しく書けない児童が一定数いる。また、状況や場面から、会話の内容を聞き取ることが苦手な児童がいた。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	・外国語の発音やリズムを習得できるように、外国語の歌を聞いたり簡単な会話をしたりする。	・コミュニケーションを取る際の表現の一つとしてジェスチャーや表情で伝えられるように、単語に合った絵や写真、動画を用いる。	・外国語を使ったコミュニケーションが図れるように、色や動物、数字など日頃よく使う名前を用いた場面を設定し、友達とゲームをしたりコミュニケーションをとったりする活動を取り入れる。
	第4学年	・英語特有のリズムやイントネーションを体得できるように、英語で歌ったりチャンツをしたりする。	・基本的な表現の意味の手がかりになるように、顔の表情や身振りを大きくしたり、イラストや写真を用いたりする。	・主体的に外国語でコミュニケーションが図れるように、身近な場面を設定し、友達やALTと尋ねたり答えたりする活動を多く取り入れる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 各種チャンツや書くことを通して、外国語に対する理解を深めていく。 日常生活の身近な英単語をフラッシュカード等を用いて、意味の理解や発音を練習する場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる単語とその意味をイラストなどを効果的に用いて理解を深めていく。 日常生活の対話の場면을繰り返し用いることで、会話を聞いて、英単語から意味や状況を推測する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツやゲームを適宜取り入れ、誰もが楽しく参加できるような授業で行っていく。 英単語の発音とそれを用いた英作文をセットで学習することで、効果的に学習できるようにする。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの歌やプリントなどを用いて理解を深めていく。 身近な英単語を、フラッシュカードを用いて意味と発音を理解する場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの場所を表す単語とその意味を、イラストなどを用いて理解を深めていく。 日常生活の対話の場면을聞き、どんな言葉が聞こえたか、英単語から意味や状況を推測する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なゲームを取り入れ、誰もが楽しく参加できるようなものを授業で行っていく。 英単語で発音していくだけでなく、英作文で1セットになるようにしていく。

6 生 活

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・限られた校内環境の中ではあるが、アサガオやミニトマトを育て、植物を大切にすることができた。
- ・学校探検は1年生を2年生が案内することができなかったが、1年生が教職員と交流する活動に変え、自主的に学校探検をして校内の身近な施設について学ぶことができた。
- ・まち探検は、保護者の協力も得て児童の自発的な調べ学習を進めることができた。

(2) 課題

- ・コロナ禍で交流学习に限りがあり、例年のような調べ学習が十分にできなかった。引き続き自分の学校地域への愛着を育てていくことが必要である。
- ・自分の成長を振り返り、見守られ愛情をもって育てられたことに気付くこと、感謝する気持ちをもつこと、今後の目標や希望を持ったりすることが十分とはいえない。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの気付きをもたせるために、体験活動やタブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習や全体での発表の場を多く取り入れることで、友達の考えや気付きを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い気付きをしている児童を取り上げて価値づけ、学んだことを他教科や生活に生かす。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動やまちの施設見学などの体験活動を多く取り入れ、自分の気付きや、人とのかわりを大切にする姿勢を育てる。 ・タブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の楽しさを味わうとともに、自分の気付きを具体的に表現する活動を通して、表現力を高める。 ・小グループでの話し合いや発表会など、友達と交流することで、お互いの考えの良いところに気付かせられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の過程をきめ細かく見取り、つぶやきや発言、思いを持つことも称賛して価値づけ、自分や友達の考えや気付きのよさに、自ら気付いていけるようにする。

7 音 楽

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽を聴き、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現することができるようになってきた。
- ・旋律の特徴を生かした音色になるように、練習時に言葉で特徴を表現させてから音楽での表現へとつなげることで、旋律の特徴を生かした表現ができるようになってきた。

(2) 課題

- ・感染症対策で歌唱や器楽を行っていなかったため、積極的に活動を進めていくことができない児童がいる。
- ・創意工夫を自ら考え、演奏に生かすことが難しい児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム感を身に付ける。そのために、体や楽器によるリズム打ちを十分に行う。 ・身体表現を使うなどしながら階名の摸唱や暗唱に取り組むことで、音の高さや速さを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽に親しみ、歌ったり聴いたりして拍の流れを感じ取れるようにすることで、音楽的感覚を育てるようにする ・拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器に親しんで演奏する活動を工夫し、表情豊かに表現したり想像力を広げたりしながら、鑑賞できるようにしたりすることで、興味をもって、進んで学習に取り組む姿勢を育てる
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・体でリズムを感じ取り、拍の流れに乗って身体表現をしたり、簡単なリズムのフレーズを作ったりすることができるようにする。 ・音の高低を感じ取りながら、歌ったり演奏したりできるように、身体表現を使うなどしながら階名の摸唱や暗唱に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いたり歌ったりして、拍の流れを感じ取るなどの音楽的感覚を育てるようにする。 ・拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情豊かに表現したり想像力を広げたりしながら、鑑賞する体験を多くさせる。 ・楽器に親しんで演奏する機会を多く設け、興味を持って、進んで学習に取り組む姿勢を育てる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 音楽の特徴と気持ちを表すことばを関連付けて音楽を聴けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 聴きなじみのある楽曲や題材にすることで、興味・関心を広げていく。 クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 音の重なりを中心に、その特徴を生かした音色になるように考え、取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 音楽の特徴や気持ちを表すことばを掲示し、その中から自分で要素を選択した上で、演奏の工夫を考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 聴きなじみのある楽曲や題材にすることで、興味・関心を広げていく。 クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。

8 図画工作

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・鑑賞方法を学年の実態や授業内容に合わせて変化させたり、作品を見る視点を明確にし
たりすることで、児童が意欲的に鑑賞活動に取り組むことができた。
- ・道具の正しい使い方について、動画や黒板掲示において繰り返し確認し、道具を安全に
使って活動に臨む姿勢を育むことができた。

(2) 課題

- ・道具の使い方についての確認や鑑賞活動において、発言をする児童が一定になってしま
った。
- ・色や形、材料との関わりから、表現の発想の広がりがあまり見られなかった。
- ・児童の学習に対する主体的な態度

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低 学 年	第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをのびのびと表現するために、身近な材料や道具の特徴をよく知り、使い方に慣れるようにする。 ・友達の作品を鑑賞したり表現活動を見合う場を設けたりすることで、作品のよさや工夫を見つめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活経験を想起できるような題材を設定したり、デジタル教科書や図書を活用して導入を工夫したりすることで、自分が表現したいことを見つけ、作品作りに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい作品に仕上げようとする態度を育てる。そのために、作品の良さや工夫を取り上げ、共有する。また、教師が声をかけて助言や価値付けをしたり、身近な題材や材料を取り入れたりする。
	第 2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で扱いやすい材料や用具に十分になれ、自分の表したいことに生かせるようにする。 ・友達の作品や表現活動を見ることで、互いの良さや工夫を見つけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、想像したこと、見たことなどの中から、表したいことを見つける力を育てる。 ・新しい表現方法や材料にも意欲的に取り組んだり働きかけたりする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで発展できる制作過程を考え、活動のきっかけになるような声掛けをするなどの支援をする。 ・試したり、やり直したりできる場の設定や表現方法を工夫して、楽しみながら意欲的に表現活動に取り組む態度を育てる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料や用具を経験することのできる題材を設定する。また、材料や用具の正しい使い方についてしっかり指導し、児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時や表現活動の途中に、児童が対話的に形や色、材料の特徴などについて考えることのできる時間を設ける。 身近にある作品の鑑賞活動の機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童、児童同士の対話によって授業の導入を進め、進んで活動に取り組もうとする態度を育む。 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声がけをする。 まとめとしてクラスで鑑賞会をするなどの授業計画を明確にする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの材料や用具を活用し、児童が工夫して表現活動に臨めるような場づくりや題材の設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時や表現活動の途中に、児童が対話的に形や色、材料の特徴などについて考えることのできる時間を設ける。 親しみのある作品の鑑賞活動の機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童、児童同士の対話によって授業の導入を進め、主体的に活動に取り組もうとする態度を育む。 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声がけをする。 まとめとしてクラスで鑑賞会をするなどの授業計画を明確にする。

9 家庭

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業時数を確保することで、児童の意欲・関心を高めることができた。
- ・ソーイングで手元を映すなど、効果的にICTを活用することができた。
- ・いろいろな考えを共有するために、発表や交流をする活動の場を増やした。

(2) 課題

- ・技術力による進度差や意欲の差はまだ大きく、その結果が苦手意識に繋がっている。
- ・調理分野については感染症対策の影響で理解度や技術を評価することが難しい。
- ・授業での調べ学習ではICTを活用できたが、家庭学習作業でICT活動を行える範囲は少ない。
- ・活発な活動ができるグループとの差が大きく、全体として時間内に仕上げるのが苦手である。

2 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	<ul style="list-style-type: none">・ソーイングの基礎基本を定着させる。・ぬい方の良さを理解し、特徴を捉えられるよう取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none">・振り返りを行うことで改善を次回にどう生かすか考える力を養える。・児童同士の作品発表会で友達の商品の良さに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none">・計画性や見通しをもたせる学習を取り入れ実習や活動をする。・家庭での調査や取り組みを増やし経験を評価してもらうことでさらに自主的な取り組みになるようにする。

10 体 育

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- いろいろな動きが経験できるよう、めあてや技能に応じた様々な場を用意することで、児童一人ひとりの躰きを解消することができた。
- 良い動きをしている児童を紹介する時間（シェアリング）を毎時間取ることによって、互いに動きや技のポイントを見合い、学びの質や運動技能の向上につながった。
- 学習カードを効果的に活用することで、個人のめあてをもち、主体的に学習に取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- コロナウイルス感染症対策の影響により、多くの児童の体力が低下していることが学習や生活の中でうかがえる。児童の技能面での個人差が昨年度に引き続き見られる。
- 児童同士で運動を見合い、励まし合うことが難しい児童もいる。動きのポイントを的確にとらえさせる必要がある。
- 適切に自己のめあてを設定することが難しい児童もいる。運動の場や学習活動の改善が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な動きを身に付けるために、誰もが楽しめる場の設定を工夫し、様々な運動経験をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 良い動きを共有する時間を設定することで、友達の良い動きに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全員が楽しみ、達成感を味わうために、誰もが楽しめるルールを工夫したり、遊びの要素を取り入れたりする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 誰もが楽しめる工夫を行い、一人一人が達成感を味わえるようにする。 • 運動遊びでは、楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の良い動きを共有する時間を効果的に取り入れ、意欲的にまねしていこうという意識を育て、良い動きを広めていく。 • いろいろな動きや楽しいゲームを通して、心身のコントロールがうまくできるように、楽しさを体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 運動遊びにゲーム性を持たせ、意欲的にいろいろな動きが体験できるように工夫する。 • 友達と関わる機会を多く設けて、誰とでも仲良く活動する楽しさを味わわせ、積極的に運動遊びに取り組む姿勢を育てる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 運動技能に個人差が見られるため、スモールステップで取り組むことができる場を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で運動を見合う時間を確保する。 ICT機器を活用して、自分の課題を見つけることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりを意識して取り組むことができるように、視覚的に提示する。 見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の流れを伝える。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童のつまずきに対する場を準備して、課題解決の時間を十分確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを意識した指導や助言をする。また、必要であれば掲示物を用意し、児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間シェアリングの時間を設け、友達の考えを聞いて新しい動きに挑戦したり、ポイントを意識して取り組んだりする時間を設定する。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童のつまずきに対する場を準備して、課題解決の時間を十分確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードの記入についての指導を徹底する。毎時間少しでも、体のどの部分をどこ（具体的な位置）に置くように意識すると、何がやりやすくなったのかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に取り組みたくなるような、場の設定、ルールの工夫、お互いへの声掛けの指導を行う。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを認識して改善・向上できるよう、運動の時間を十分に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が見つけた運動のポイントを記入できる掲示物を作成する。それをもとに児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 決まりを守り、協力しながら準備や片付けを行う姿勢を養う。また、児童たちが主体的に運動に取り組めるような場を設定したり、友達の動きを見合い、アドバイスし合う時間を設けたりする。

